

No.13 2002年10月発行

淀川水系 流域委員会 猪名川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第13回猪名川部会の内容……………P.1
- 第13回猪名川部会の資料より抜粋……………P.6
- 猪名川部会現地フィールドワークの内容……………P.9
- これまで開催された委員会および部会等について……………P.13
- 当日資料の閲覧・入手方法……………P.14

平成14年8月20日(火) 第13回猪名川部会が開かれました。



【axビル アクスネットにて】

第13回猪名川部会 委員リスト

2002.8.20現在
(五十音順、敬称略)

	氏名	対象分野	所属等	備考(兼任)
1	池淵 周一 (部会長代理)	水資源(水文学、水資源工学)	京都大学防災研究所 教授	委員会
2	田中 哲夫	漁業関係(魚類生態学)	兵庫県立姫路工業大学 自然・環境科学研究所 助教授	-
3	畑 武志	農業関係	神戸大学農学部 教授	-
4	服部 保	植物(植物生態学)	兵庫県立姫路工業大学 自然・環境科学研究所 所長、教授	-
5	東山 充	地域の特性に詳しい委員	特になし	-
6	畚野 剛	地域の特性に詳しい委員	川西自然教室 代表	-
7	細川 ゆう子	地域の特性に詳しい委員 (住民運動)	猪名川の自然と文化を守る会	-
8	本多 孝	地域の特性に詳しい委員 (環境教育、人と自然のかかわり)	みのお山自然の会 会長	-
9	松本 馨	地域の特性に詳しい委員 (地域自然保護活動、淡水生物調査、 環境(自然保護)教育)	池田・人と自然の会 代表	-
10	森下 郁子	動物	淡水生物研究所 所長	-
11	矢野 洋	水質	神戸市水道局水質試験所 所長	-
12	米山 俊直 (部会長)	水文化	京都大学 名誉教授 大手前大学 学長	委員会

注1: 対象分野欄の()は委員の専門を示しています。

第13回猪名川部会の内容

最終提言に向けた部会のスケジュールについて議論が行われた後、河川管理者より治水に関する情報提供が行われ、意見交換が行われました。

第13回猪名川部会(2002.8.20開催)結果概要(暫定版)

庶務作成

開催日時: 2002年8月20日(火) 10:00~13:30

場 所: a x ビル アクスネット

参加者数: 委員9名、河川管理者11名、一般傍聴者51名

1. 決定事項

今後の部会のスケジュールについて、以下の通り決定した。

- ・9月21日(土)に現地対話集会を行う。招聘者の選定については、部会長及び部会長代理に一任する。
- ・第14回猪名川部会は10月1日(火)16:00より開催する。審議時間は4時間を目安とする。
- ・第15回猪名川部会は、10月17日(木)10:00~13:00に開催する。

2. 審議の概要

第13回委員会の報告、委員会WGに関する情報共有

資料1-1「委員会および他部会の状況(中間とりまとめ以降)」、資料1-2「今後の流域委員会の進め方について」をもとに、委員会および他部会、各WGの活動状況、スケジュール等について報告が行われた。また、部会長より8/2(金)に開催された猪名川部会現地フィールドワークの結果についても報告が行われた。なお、委員より、全体スケジュールに対して、「期間が短すぎるのでは」との指摘があり、部会長代理より「運営会議に報告したい」との発言があった。

今後の猪名川部会の進め方について

資料3-1「今後の猪名川部会の進め方について」をもとに、今後のスケジュールについて議論が行われ、上記「1. 決定事項」の通り決定された。また、委員より「ダムの問題については早めに議論すべき」との発言があった。

猪名川の治水に関する河川管理者からの情報提供と意見交換

河川管理者より前回部会での要請をうけた情報提供が行われた。

- ・猪名川流域の既往4洪水の現況河道における被害状況シミュレーション、および昭和

28年9月洪水規模の1.2倍、1.5倍、1.8倍、2.0倍のシミュレーション結果（資料4-1「猪名川の治水の現状」）

これに対して、部会長代理より、「破堤回避のための堤防強化を行った時のシミュレーションの計算条件等については、整理したうえで、再度河川管理者にお伝えしたい」との発言があった。

河川管理者からの情報提供

委員からの質問に対する回答および情報提供として、以下の説明が行われた。

- ・猪名川流域の水防団の現状について（資料4-2「猪名川直轄区間の水防団の現状」）
- ・平成14年の猪名川流域の湯水状況（資料6）

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名から、最終提言に関する質問及び「余野川ダムの問題については早く議論していただきたい」との発言があった。

3. 主な報告と意見交換

今後の猪名川部会の進め方について

庶務より、資料3-1「今後の猪名川部会の進め方について」を用いて、最終提言の素案の検討スケジュールについて説明が行われた。

（主な意見）

- ・神崎川の水質浄化の活動をしている人から「神崎川については何の意見も出ていない」という意見を聞いた。こういった一般意見を検討する機会は、現状ではほとんどない。意見をうかがった限り、何らかの形で反映すべきだと思う。（委員）
- ・委員会のWGの検討には、水質の問題を入れてほしい。（委員）
- ・ダムの問題については「中間とりまとめが終わってから議論する」ということになっていた。現状のスケジュールでは、その時間がとれない。ダムの問題は当部会においても早めに議論したい。部会の回数を増やすことは難しいので、会議を1時間延長する、あるいは会議のスケジュールの見直しも検討すべきだろう。（委員）
- ・ダムについて議論する時には、水需要の問題を考えねばならない。猪名川については大阪府の水道局の説明だけでは不十分。阪神水道企業団から説明していただくよう要請する。（委員）

猪名川の治水に関する河川管理者からの情報提供と意見交換

資料4-1「猪名川の治水の現状」、その後資料4-2「猪名川直轄区間の水防団の現

状」、資料6「平成14年猪名川の湯水状況について」を用いて、説明がなされた。

*洪水被害シミュレーション

平成13年度現況河道における昭和28年9月、35年8月、42年7月、58年9月降雨の被害状況のシミュレーション（昭和28年9月降雨については、1.0倍、1.2倍、1.5倍、1.8倍、2.0倍の被害状況シミュレーション）の説明が行われた。

- ・シミュレーションの結果、浸水常襲地区の銀橋上流多田地区における浸水や無堤地区（川西池田地区）からの拡散型氾濫で尼崎市などの下流が浸水する危険がある。
- ・猪名川流域には水防団は存在せず、消防団が任務にあたる。尼崎市の場合は市長が本部長、市の職員が水防団、さらに住民が消防団（機動隊）を結成し、水防活動を行っている。
- ・一庫ダムの貯水位等の現況と取水制限の状況が説明された。

（意見交換）

- ・既往4洪水のうち、昭和42年7月の被害がとび抜けて大きいのはなぜか。（委員）
集中豪雨がその理由と考えられるが、きちんと解析されているわけではない。（河川管理者）
昭和42年7月の洪水被害の原因が究明されていないとすれば問題だ。4洪水とも銀橋狭窄部の上流で被害が発生しているが、その対策を考える必要がある。例えば住宅や商業施設の下駄履きなどの対策によって浸水被害を防がなければ、銀橋狭窄部の開削が必要となってくるだろう。しかし、銀橋狭窄部を開削すれば、下流域に危険が高まる。さまざまなことを検討するうえでも、昭和42年7月の洪水被害の原因を究明して頂きたい。（委員）
- ・シミュレーションによれば、昭和35年8月の被害がもっとも甚大だと思われるため、これを基本にした治水対策を考えていく必要がある。（委員）
流域委員会の理念は「いかなる降雨に対しても、破堤による壊滅的被害の回避を優先する」となっている。対象とする雨量を決めて計画流量を流すという従来の治水対策からの転換を提言しているのではなかったか。（河川管理者）
確かにその通りだが、壊滅的被害を防ぐための方法を具体的に考えるためには、一例として昭和35年8月の被害シミュレーションを取り上げ、想定される被害額と必要な工事費のバランスを考える必要がある。（委員）
- ・自然環境の保護は流域全体で考えなければならない。ダムは局地的な環境破壊をもたらすが、破堤回避のために全川の堤防を強化しつづける河川改修も長期間にわたって環境悪化を招く。ダムによってこれらが回避できるのであれば、結果的にはダムのほうが安く済むのかもしれない。どちらにせよ、判断を下すためには具体的な工事の全容を知る必要がある。（委員）
- ・ダムや堤防の強化以外にも、ライフスタイルの変更やリスクマネジメントといっ

たソフト面での対策を河川整備計画に盛り込んでいくということが、流域委員会の出発点だ。ダムによって、今ある自然は破壊するべきではない。(委員)

- ・このシミュレーションでは想定されていない内水被害も想定すべき。また破堤しにくいすごい堤防をつくった場合には、工事中だけでなく連続性の分断など工事後の環境への影響も考えるべき。(委員)
- ・流域委員会の中間とりまとめには「下流に負荷を及ぼすような工事はしない」とあるが、銀橋狭窄部の掘削、川西池田地区の堤防整備など破堤回避工事が下流に負荷を及ぼすのではないか。(委員)

上流で堤防を高くすれば、下流の流量が増え負荷を与える。だからといって、上流の浸水常襲地帯を放っておくわけにもいかない。(河川管理者)

破堤・越水した箇所で遊水地の機能を発揮させながら、洪水や浸水のスピードを軽減させるような流域全体を視野に入れた仕組みが必要だろう。(委員)

- ・シミュレーションの前提には様々なケースが想定されるため、部会長代理がシナリオを検討した上で次回河川管理者に結果を再度出して頂くこととする。

一般傍聴者からの意見聴取

- ・余野川ダムについては、個別に取り上げて、早く議論して頂きたい。万が一、余野川ダムについて、流域委員会の意見書で触れられなかった場合、どう取り扱われるのか。(一般傍聴者)

まず、余野川ダム事業について河川整備計画原案に、書かなかった場合、書いた場合の2通りがある。

河川管理者が河川整備計画原案に余野川ダムについて書かなかった場合で、その後の議論を通して作成される河川整備計画原案に対する流域委員会の意見書にも触れられなければ、余野川ダムは河川整備計画に記載されないことになるので、ダム事業は行わないことになる。

河川管理者が河川整備計画原案に余野川ダムについて書いた場合で、その後の議論を通して作成される整備計画原案に対する流域委員会の意見書にも触れられなければ、ダム建設が認められたことになり、ダム事業は行いが、河川整備計画原案に対する流域委員会の意見書に「建設するべきではない」という意見があれば、その意見を最大限尊重して検討する。(河川管理者)

以上

説明及び発言内容については、現在確認中であるため、随時変更する可能性があります。

尚、議事内容の詳細については「議事録」をご確認下さい。

最新の結果概要及び議事録は、ホームページに掲載しております。



説明資料一覧

資料リスト		資料請求 No
議事次第		i13-A
資料1 - 1	委員会および他部会の状況(中間とりまとめ以降)	i13-B
資料1 - 2	今後の流域委員会の進め方について(第13回委員会資料2 - 1)	i13-C
資料1 - 3	「淀川水系の浸水想定区域の指定・公表について」: 近畿地方整備局提供	i13-D
資料2	委員会WG 結果概要、結果報告	i13-E
資料3 - 1	今後の猪名川部会の進め方について	i13-F
資料3 - 2	8月~12月の委員会、部会、運営会議の日程について	i13-G
資料4 - 1	「猪名川の治水の現状」: 猪名川工事事務所提供	i13-H
資料4 - 2	「猪名川直轄区間の水防団の現状」: 猪名川工事事務所提供	i13-I
資料4 - 2補足	「水防テキストブック(パンフレット)」: 猪名川工事事務所提供	i13-J
資料5	流域委員会の運営に関するお知らせ(第13回運営会議より)	i13-K
資料6	「平成14年猪名川の湯水状況について」: 猪名川工事事務所提供	i13-L
参考資料1	猪名川部会中間とりまとめに関する委員と河川管理者との意見交換の概要	i13-M
参考資料2 - 1	委員および一般からのご意見	i13-N
参考資料2 - 2	一般からの中間とりまとめへのご意見	i13-O

注1: 紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.14の「当日資料の閲覧・入手方法」をご覧ください。

注2: 「 」のついた資料は原本はカラーとなっておりますが一般傍聴者には白黒コピーを配付した資料です。ホームページでは、カラーで閲覧頂けます。

第13回猪名川部会の資料より抜粋

河川管理者説明資料より

河川管理者より、資料4-1「猪名川の治水の現状」を用いて、治水対策の考え方や洪水シミュレーションの結果についての説明が行われました。以下に、資料より主な内容を抜粋して掲載いたします。

猪名川の被害の歴史 - 昭和28年9月洪水被害状況



伊丹市桑津橋の流失状況

民家の被害状況（中の島）

伊丹市下河原地内猪名川支流内川付近の浸水状況

出典：工事事務所資料

猪名川の被害の歴史 - 昭和35年8月洪水被害状況



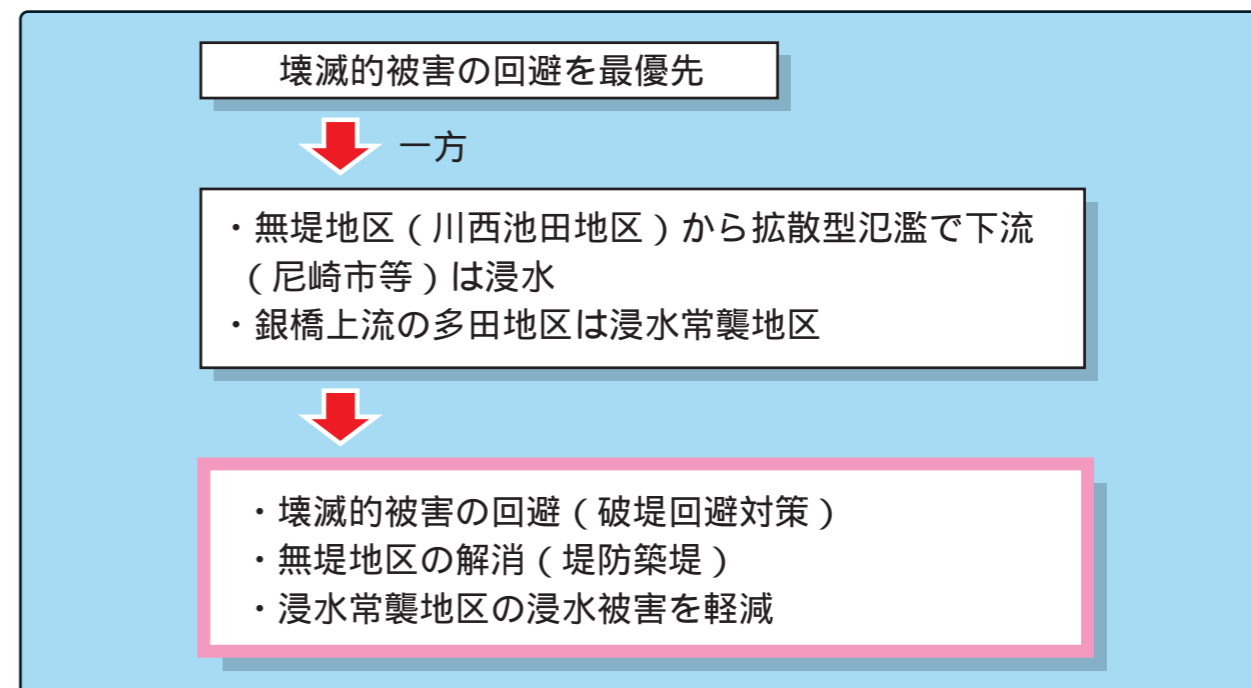
池田市絹延橋

猪名川、千里川合流点付近

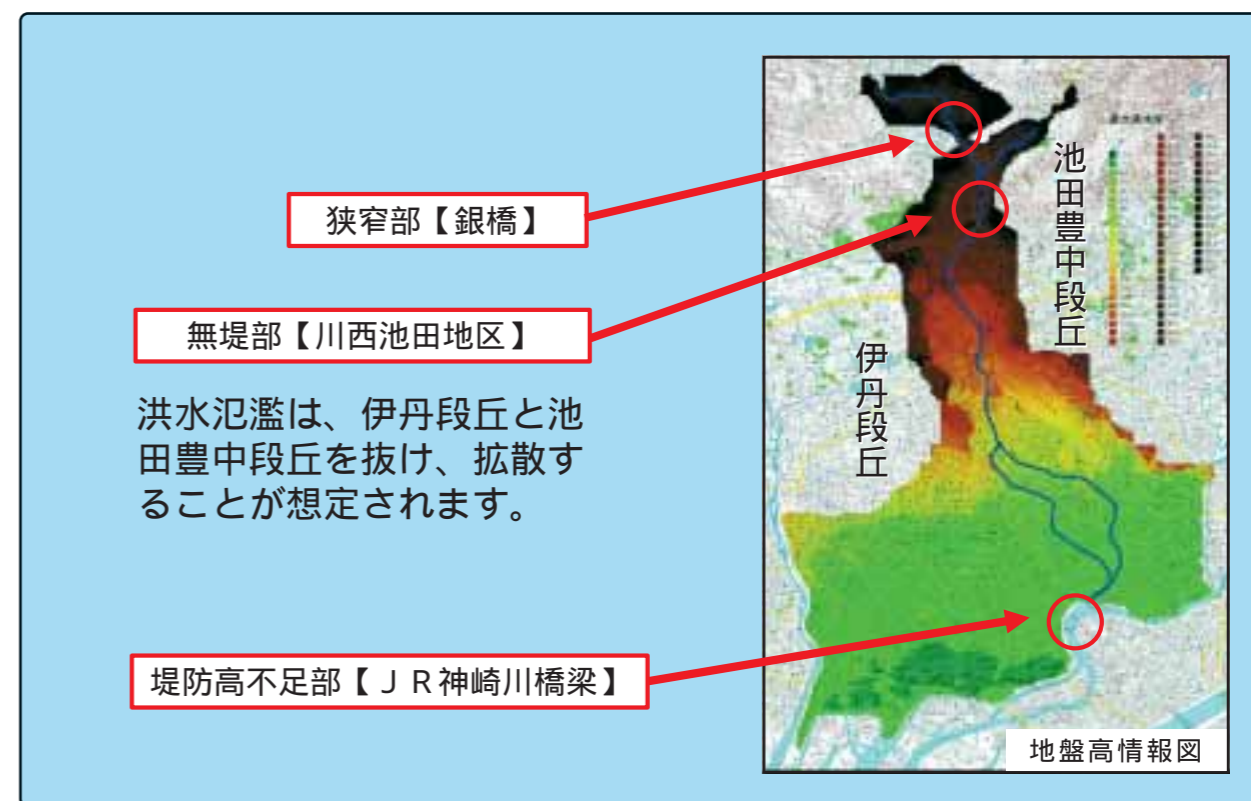
池田市中の島地区の増水状況

出典：工事事務所資料

中間とりまとめを受けて河川管理者の「これからの治水の基本的考え方」



猪名川の治水の特徴（ポイント）- 流域の特徴



狭窄部【銀橋】

無堤部【川西池田地区】

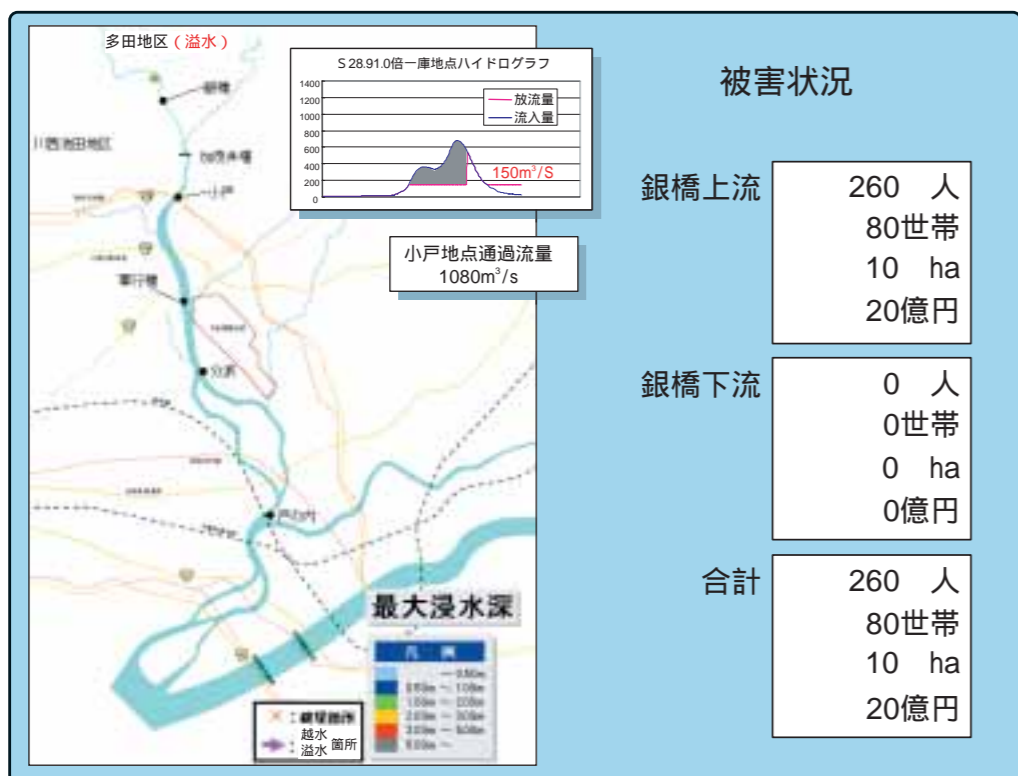
洪水氾濫は、伊丹段丘と池田豊中段丘を抜け、拡散することが想定されます。

堤防高不足部【JR神崎川橋梁】

地盤高情報図

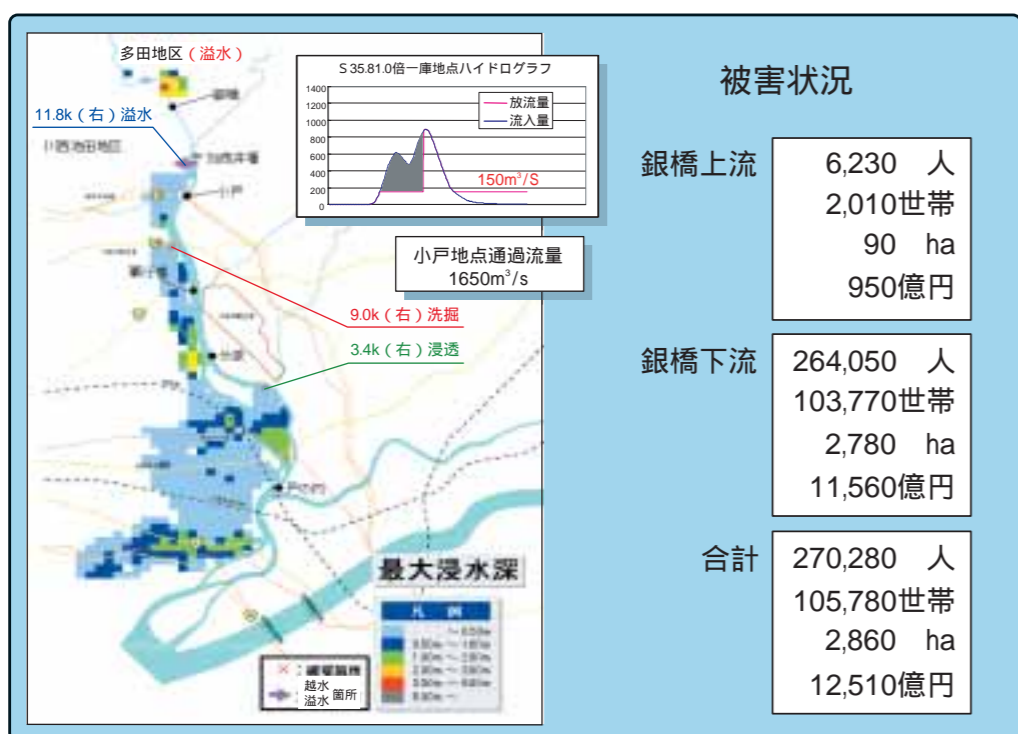
洪水シミュレーション1

- 現況河道（今の堤防高）で、昭和28年9月の降雨量が降った場合の想定被害



洪水シミュレーション2

- 現況河道（今の堤防高）で、昭和35年8月の降雨量が降った場合の想定被害



猪名川部会現地フィールドワーク(現地視察)の内容

平成14年8月2日(金)、猪名川部会委員により、多田地区やダムサイトなど流域の視察や住民の方々と現地にて意見交換を行うことを目的に、フィールドワークが行われました。

猪名川部会現地フィールドワーク(現地視察)結果概要

庶務作成

開催日時：2002年8月2日(金) 10:00~16:30

場所：多田地区、妙見ケーブルのりば付近、余野川ダムサイト、水と緑の健康都市等

参加者：委員5名、一般傍聴者1名

1 現地フィールドワーク(現地視察)の概要

委員による現地視察

- ・多田地区の方々とともに、多田神社周辺の昭和35年の16号台風時の浸水状況、こんにやく橋（塩川と猪名川の合流地点）より下流部の整備状況、多田神社から猪名川に沿って東へ流れる「よみぞ」等を歩き、地域の状況や歴史的・文化的な背景などについて伺った。
- ・妙見ケーブルのりば付近の台場クヌギの里山的風景等を視察した。

地元（多田地区）の方等との意見交換

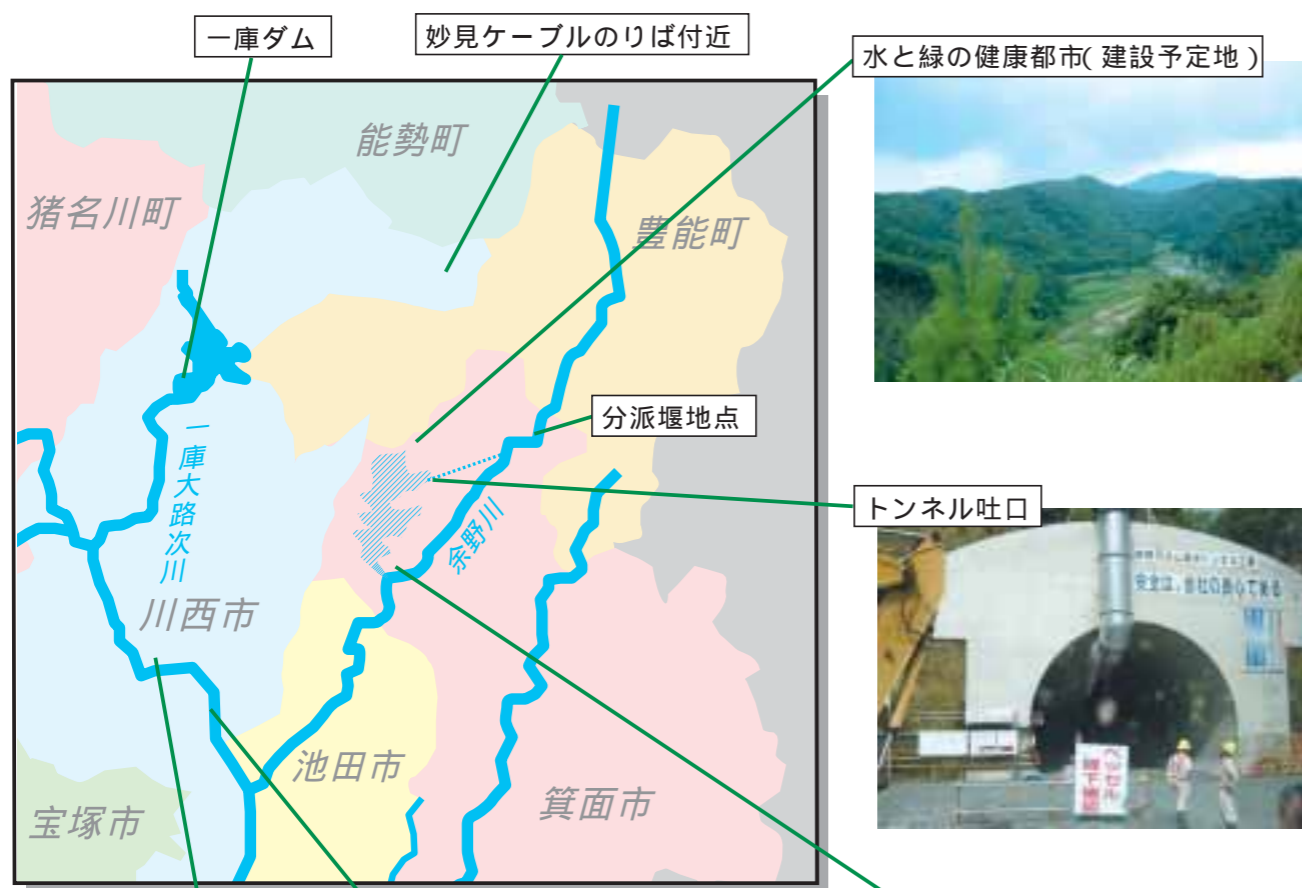
多田公民館にて、地元住民の方等と意見交換を行った。主な意見についてはP11~12を参照。

河川管理者からの説明

余野川ダム建設予定地周辺にて、河川管理者より余野川ダムの目的と概要、導水トンネルや水と緑の健康都市の造成計画、環境保全対策等についての説明を伺った。



2 猪名川部会フィールドワーク(現地視察)ポイント



多田地区(多田神社付近)

銀橋(鼓が滝狭窄部)



余野川ダム(建設予定地)



水と緑の健康都市(建設予定地)



トンネル吐口



3 猪名川部会現地フィールドワーク(現地視察)における地元住民の方々との意見交換概要

場 所：多田公民館会議室

委員の推薦によりお越し頂いた地元住民の方々にご意見を伺い、委員と住民の方々との意見交換を行った。

河川整備全般について

- ・一部のみを考えるのではなく、総合的な治水を考えないといけない。また、歴史的・文化的な面も含めて対応策を考えるべきである。(地元住民)
- ・洪水時に子ども達が楽しんでいたという話が出ていたが、それは親がきちんとリスクマネジメントをしていたからだろう。洪水対策を個々ができる仕組みを作っていきたい。流域委員会でも河川レンジャー等の話が出ているが、理想論だけでなく、具体論をきちんと示さないと今までと同じことになってしまう。(委員)
- ・危険を知らずに引っ越してきた人達のために自然を破壊してしまう行動をとるべきなのか。(委員)
- ・大きなダムではなく、小さなため池をいくつか作り、巨大な構造物を作らないようにした方がよいのではないか。(委員)
- ・既に始まっている工事を中止するには、手順を踏まないといけない。例えば、余野川ダムは、流域委員会がノーと言えば、やめることになるが、一旦建設が始まれば止めるのは難しい。(委員)
- ・中間とりまとめで提唱されている氾濫を前提として治水を行うのは仕方がないことだと思う。(地元住民)
- ・行政と市民が役割分担をしながら進めていく必要がある。(地元住民)

銀橋狭窄部の開削について

- ・地元の人達でも、銀橋を開削する計画があるのを知っている人が少ないのではないか。(地元住民)
- ・銀橋周辺を開削すると、逆に下流の川西市役所周辺が浸水するのではないか。遊水池を作る等をすれば開削しなくてもよいのではないか。(地元住民)
- ・多田地区の東側上流の池を開発によって埋めたことで、水が留まらなかった分が下流で浸水しているのではないか。猪名川本流の影響はむしろ小さいという感覚がある。銀橋を開削したからといって多田地区が浸からなくなるのかどうか、疑問を感じる。(地元住民)
- ・開削してほしいというニーズがあったようだが、それは一部の意見で、全体の総意ではないのではないか。今のニーズが開削せよ、と思っはいけないだろう。個別のニーズか総意かをきちんと確認すべき。(地元住民)

住民の意識・関心について

- ・このような問題があることを議論する場が大切である。考え方は、世代や住まい(川のそばと離れている所)、居住年数等、人によってさまざまである。(地元住民)
- ・どうやって住民のニーズをつかむかが難しい。それは多数決ではなく、被害にあっている人にきかないといけないだろう。(委員)

これまで開催された委員会および部会等について

第13回猪名川部会(平成14年8月20日)までに、以下の会議が開催されています。

委員会		琵琶湖部会		淀川部会		猪名川部会	
第1回	H13/2/1(木)	第1回	H13/5/11(金)	第1回	H13/5/9(水)	第1回	H13/5/23(水)
第2回	H13/4/12(木)	第2回	H13/6/8(金) (現地視察)	第2回	H13/6/2(土) (現地視察)	第2回	H13/6/7(木) (現地視察)
第3回	H13/6/18(月)	第3回	H13/6/25(月) (現地視察)	第3回	H13/7/6(金)	第3回	H13/6/21(木) (現地視察)
第4回	H13/7/24(火)	第4回	H13/8/22(水)	第4回	H13/8/9(木) (現地視察)	第4回	H13/8/7(火)
第5回	H13/9/21(金)	第5回	H13/10/12(金)	第5回	H13/8/11(土) (現地視察)	第5回	H13/10/9(火)
第6回	H13/11/29(木)	第6回	H13/11/1(木)	第6回	H13/8/19(日) (現地視察)	第6回	H13/12/18(火)
第7回	H14/2/1(金)	第7回	H13/11/20(火) (現地視察)	第7回	H13/9/10(月)	第7回	H14/1/18(金)
第8回	H14/2/21(木)	第8回	H13/12/21(金) 「意見聴取の試行のための会」	第8回	H13/10/31(水)	第8回	H14/1/27(日) (意見聴取の会含む)
第9回	H14/3/30(土) (意見聴取の会含む)	第9回	H14/1/24(木)	第9回	H13/11/26(月)	第9回	H14/2/15(金)
第10回	H14/4/26(金)	第10回	H14/2/19(火) (意見聴取の会含む)	第10回	H13/12/17(月)	第10回	H14/3/4(月)
第11回	H14/5/15(水)	第11回	H14/3/13(水)	第11回	H14/1/26(土) (意見聴取の会含む)	第11回	H14/6/11(火)
第12回	H14/6/6(木)	第12回	H14/4/7(日)	第12回	H14/2/5(火)	第12回	H14/7/11(木)
第13回	H14/7/30(火)	第13回	H14/5/12(日)	第13回	H14/3/14(木)		
		第14回	H14/6/4(火) (現地視察)	第14回	H14/4/5(金)		
		第15回	H14/6/17(月)	第15回	H14/5/27(月)		
		第16回	H14/7/4(木)	第16回	H14/6/24(月)		
		第17回	H14/8/8(木)	第17回	H14/7/31(水)		

その他	設立会	H13/2/1(木)	第1回 合同勉強会	H14/4/11(木)
	発足会	H13/2/1(木)	シンポジウム	H14/6/23(日)
	第1回 合同懇談会	H13/2/1(木)		

- ・住居、繁華街、史跡、美しい自然景観が集まっている多田地区を次世代にどのように残していくか、が我々に課せられた課題であると思っている。(地元住民)
- ・住民に力がないというよりは、無関心な人がほとんどではないか。(地元住民)
- ・自分で何らかの考えをもった上で、他の意見をもらうようにすべきである。(委員)
- ・住民の意識をどう変えていくかが大事である。我々も生き物であるという自覚がない人が多い。それがないと絶望的だと思う(地元住民)

行政のあり方

- ・国や自治体がきちんと方針を示し、一般住民に適切な情報提供を行い、地域住民の意見を聴くようにすべきである。(地元住民)
- ・河川法が改正され、住民の意見を聴くようになったが、逆に多くの人の意見を聞くことで方向性がまとまりにくく、河川整備がやりにくくなっているのではないか。(地元住民)
- ・国の方向が変わった。河川整備のあり方について、合理的な結論を出すように委員会にまかせられている。そのような中で、"多少の越水は認めよう"という方針が本当に住民に受け入れられるのだろうか、委員会としても悩んでいる。(委員)
- ・公園にもあてはまるが、同じ川であるのに、管轄によって整備がバラバラになっている。管理の仕方を十分に考え、連携をとる仕組みを作らないといけない。(委員)
- ・環境教育が大事で、その仕組みづくりが必要。行政も予算をとって事業化しないとけない。流域委員会としても、理想論が先走り具体論がないという結果にはしたくない。(委員)

消防団について

- ・当地区では、水防団は特になく、消防団が夏だけ水防を兼ねている。(地元住民)
- ・消防団は普段は20人程度で、川西市防災本部が消防本部として司令塔の役割を果たしている。洪水等の際には、危険な橋に渡らないように閉鎖する等を行っている。(地元住民)

水質・環境について

- ・河川改修工事によって、生き物の種類が減ってきてしまっている。(地元住民)
- ・すばらしい環境に生まれ、育ててもらったのに、我々の世代が、子ども達が遊べない、近づけない河川にしてしまった張本人であると思う。小学校のときは、こんにやく橋で水泳の授業をしたり、小学校のプールに川の水を使ったりしていたが、今は川が汚れている。(地元住民)
- ・加茂井堰はヘドロがたまり深緑色になっている。水質の悪化がひどい。(地元住民)
- ・猪名川の水道水は汚いので飲まない。(地元住民)
- ・池田も本流は汚い。特に夏場の濁水時期が汚い。(委員)

濁水対策について

- ・濁水については、一庫ダムの取水制限があるが実感はない。(地元住民)
- ・工場では濁水時に制限があるが、一般ではほとんどない。(委員)

発言内容については、随時変更する可能性があります。

当日資料の閲覧・入手方法

以下の方法で資料の全文を閲覧、または入手することができます。

ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページ

会議で使用した資料は、ホームページで公開しております。アドレスは以下の通りです。

<http://www.yodoriver.org>



郵送

郵送による資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）

ご希望の方は、別紙の「FAX送信票」にご記入のうえ、FAXまたは郵送で庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

別紙

淀川水系流域委員会
ご意見用FAX送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 井上、森永、北林)

1. 淀川水系流域委員会へのご意見をご記入ください。
寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。
ご意見を公表する場合には、団体・会社名(または居住地)とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

2. 下記にご記入下さい。 ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表および希望された方への案内状等の送付のみに使用させていただきます。

団体・会社名()

ご住所 (〒)

TEL ()

E-mail ()

お名前 ()

- 3 淀川流域委員会では、一般の方を対象としたイベントを度々行っております。案内状等の送付を希望されますか？

1. 希望する 2. 希望しない

別紙

淀川水系流域委員会傍聴申込
および資料請求用 F A X 送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 井上、森永、北林)

1. 委員会または部会への傍聴を希望される方は、下記に希望する会議の名称と開催日をご記入下さい。
会議開催の4日前までに傍聴を受け付けた場合は「受付のお知らせ」ハガキをお送りします。
会議のお知らせは、「会議開催のお知らせ」のチラシ、ホームページ等を参照下さい。

開催日 例) 月 日	会議名 例) 第 回淀川部会		

2. 委員会、部会等で提出された資料の郵送を希望される方は、各会議の説明資料一覧をニューズレター、ホームページ等で参照いただき、下記に送付を希望する資料の提出された会議名称、資料請求 Noと資料名、必要な部数をご記入下さい。

会議名称 例) 第6回淀川部会	資料請求 No 例) Y05-E	資料名 例) 資料3 - 2 現状説明資料(淀川水系の京都府下7河川の漁業について)	部数 例) 1

3. 下記にご記入下さい。必ず ~ 全てにご記入下さい。ご記入いただいた個人情報については、希望された方への案内状等の送付のみに使用させていただきます。

団体・会社名 ()

ご住所 (〒)

TEL ()

E-mail ()

お名前 (複数名での傍聴を申し込まれる場合には、全ての方のお名前をお書き下さい。)

4. 淀川流域委員会では、一般の方を対象としたイベントを度々行っております。

案内状等の送付を希望されますか？

1. 希望する 2. 希望しない

淀川水系流域委員会 猪名川部会ニュース No.13

2002年10月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター

.....
研究員：新田、柴崎、桐畑

事務担当：桐山、森永、北林

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル7F)

TEL:(06)6341-5983 FAX:(06)6341-5984

E mail:k-kim@mri.co.jp

流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局 / 淀川工事事務所 / 琵琶湖工事事務所 / 大戸川ダム工事事務所 / 淀川ダム統合管理事務所 / 猪名川工事事務所 / 猪名川総合開発工事事務所 / 木津川上流工事事務所 / 水資源開発公団 関西支社 / 滋賀県 土木交通部河港課 / 京都府 土木建築部河川課 / 大阪府 土木部河川室 / 兵庫県 土木部河川課 / 奈良県 土木部河川課 / 三重県 伊賀県民局 等

* ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。